

一般社団法人 日本小児血液・がん学会

第46回（令和元年度第2回）理事会議事録

日 時：令和元年6月16日（日） 12：00～13：00

場 所：名古屋医療センター 外来管理診療棟5階 特別会議室
愛知県名古屋市中区三の丸四丁目1番1号

出席者：細井 創（理事長）、真部 淳（副理事長）、足立壯一、天野功二、井上 健、今泉益栄、大植孝治、小野 滋、上條岳彦、上別府圭子、木下義晶、康 勝好、副島俊典、滝田順子、西川 亮、松本公一、盛武 浩、米田光宏（以上理事）、菊田 敦（監事・第62回学術集会会長）、越永従道（監事）、檜山英三（第61回学術集会会長）、井上雅美（第63回学術集会会長）

議 長：細井理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は18名中18名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 次回以降の理事会日程について

討議の結果、以下のように決定した。

第3回理事会：10月8日（火） 13：00～16：00 AP品川（予定）

第4回理事会：11月13日（水） 15：30～17：30 広島コンベンションホール

第5回理事会：2月14日（金） 13：00～16：00 AP品川（予定）

II. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、一部修正の上承認された。

なお、あわせて以下の事項が確認された。

・学会ホームページについては、社会・広報委員会で検討した結果、サイトのリニューアルおよび今後の管理体制の再考を進めることとなった。そこで複数の会社から相見積を取り、次回以降の理事会にて検討することとなった。

・会費値上げについては、他学会の状況等も勘案の上、引き続き検討を進めていく。

・グルカルピダーゼ要望書については、日本整形外科学会に連携を打診している。

・海外留学に伴う助成制度については、がんの子どもを守る会の担当者と連絡を取り、遅くとも10月中には推薦できるよう進める。

・小児がん研究プレジジョンメディシン開発研究への要望書については、図の一部に疑問点があり、松本理事を通じてJCCGの水谷前理事長に確認を行うこととなった。

・研修施設に必須とされる認定外科医の移行措置が終わる問題について、専門医制度委員会では、連携病院群を形成して教育を行う方策および認定外科医の認定要件自体を緩和する方策の両面から検討している旨報告があった。これに関して、認定要件を緩和せずに研修を拠点病院に集約すべき、また、そもそも日本専門医機構の認定が必要かどうかという点から再検討すべき、など様々な意見が述べられた。

次回理事会にて専門医制度委員会から検討結果を報告いただき、パブリックコメントその他必要な

措置を経て最終的に総会に案を提出することとなった。

Ⅲ. 審議・報告事項

1. 教育・研修委員会

大植委員長より、以下の報告があった。

1) 地区セミナーの件

北海道・中部・中四国・九州の4か所に絞り、一か所の予算を増やして開催する方向で調整した。なお、東北地区の開催を追加で検討している。

2) 教育セミナーの件

本年度学術集会時の講師候補を選定し、プログラム委員会にて承認を得た。また、社員総会時の教育セミナーを、本日予定通り開催する。

3) CLIC 開催の件

本年度の開催について、第1回目は 2019年7月14日(日)~15日(月祝)国立がんセンターにて開催予定である。募集人数40人に対して申込者数18名であったが、受講を促すため、2022年度に専門医資格を更新する会員のうち、CLIC未受講の会員に受講が必須となる旨の案内を送ったところ、30名程度に増加した。本年度中にもう1回開催できるかを検討している。

続いて、盛武副委員長より、今後の教育セッション3か年計画(2020~2022)が示され、説明があった。審議の結果、原案通り承認された。

2. 小児・AYA世代のがんゲノム医療と遺伝性腫瘍への体制整備事業について

細井理事長より、現在行っている厚生労働省委託事業「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ体制事業」は、3年間の時限計画であり、本年度で終了となること、今後は研修会の開催回数を減らすなどして、学会として続けることが可能かどうか検討する旨報告があった。

続いて、新たな厚生労働省委託事業(案)として「小児・AYA世代のがんゲノム医療と遺伝性腫瘍への体制整備事業」の資料が示され、内容について説明があった。

学会がJCCGと共同で運用する委員会等を活用し、関連学会の指針等を参考にして、小児・AYA世代がんでのゲノム医療のあり方のガイダンスを作成する。それを基に、小児がん拠点病院やゲノム中核病院、連携病院での小児がん、AYA世代がん領域のゲノム医療に関する医療従事者、さらにそれに関わる人材を育成するための研修プログラムや教材等を作成し、研修を実施する計画となる。

審議の結果、原案通り進めることが承認された。よって、今後、本案を基に厚生労働省に打診することとなった。

3. Pediatric Academic Society Meeting 2020 シンポジウム

康国際委員長より、日本小児科学会を通じて同シンポジウムのテーマ案の募集案内があったが、委員会としては、今回は応募を見送る結論となった旨報告があり了承された。

なお、今後、日本小児科学会の中で本学会のプレゼンスを高めていくことが重要との意見が述べられた。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。